

## 「打って出る司書」はこんな仕事をしています

県立図書館は来館された方へのサービスに加えて、市町村図書館や公民館図書室、学校図書館へも資料を貸し出したり、図書館を活性化させるための助言をする等「支援業務」を行っています。いわば「図書館の図書館」です。県立図書館の「打って出る司書」が平成24年度に行った支援業務をご紹介します。

### ■図書館訪問による支援

県立図書館の職員が県内の市町村図書館や公民館図書室、学校図書館などを訪問し、サービス改善のための助言や協議を行っています。24年度は延べ98の施設を訪問しました。

### ■県内の図書館職員育成のための研修

全県規模の研修会はもちろん、依頼のあった市町村図書館、公民館などへ職員が出向き、サービス企画の立案から本の修理までさまざまな研修を行っています。24年度は合計で34回開催しました。

### ■図書館への協力貸出

県内の市町村図書館や公民館図書室、学校図書館などへ県立図書館資料の貸出を行っています。毎年、3万冊近くの資料を貸し出ししています。遠方の方でも県立図書館の資料を無料で利用することができます。



＜1F書庫の貸出資料＞

## プロムナードコンサート

### 「ハンドベルの夕べ」

第3回プロムナードコンサートは、聖霊女子短期大学付属高等学校のハンドベル部の皆さんによる、クリスマスにちなんだ曲目の演奏でした。

曲目  
CHRISTMAS EVE  
FROSTY THE SNOWMAN  
JINGLE BELL ROCK 他

12月22日(土)の夕方、16人の息の合った澄んだ音色がホールに響き渡り、80人程の聴衆を魅了しました。



演奏者  
尺八 加藤 聖明  
三弦 伊藤 雅明  
箏 佐藤 雅美  
尺八 加藤 聖明  
三弦 伊藤 雅明  
箏 佐藤 雅美  
尺八 加藤 聖明  
三弦 伊藤 雅明  
箏 佐藤 雅美

### 「新春プロムナードコンサート」

1月6日(日)第4回プロムナードコンサートが催されました。雪のちらつく午後のひととき、和楽器の演奏で新春の華やいだ気分になりました。尺八の加藤さんは当館がビジネス支援をしているサクラノ農家さんです。

## 県立図書館だより

77号

発行月 平成25年3月  
編集発行 秋田県立図書館 TEL 018-866-8400  
住所 〒010-0952 FAX 018-866-6200  
秋田市山王新町14-31



パソコン用URL  
携帯用URL  
図書館全般についてE-mail  
資料のお問い合わせE-mail

5月20日(月)～5月26日(日)は、特別整理期間のため休館となります。返却はブックポストへどうぞ

<http://www.apl.pref.akita.jp>  
<http://www.apl.pref.akita.jp/m/>  
[apl@apl.pref.akita.jp](mailto:apl@apl.pref.akita.jp)  
[jouhou@apl.pref.akita.jp](mailto:jouhou@apl.pref.akita.jp)

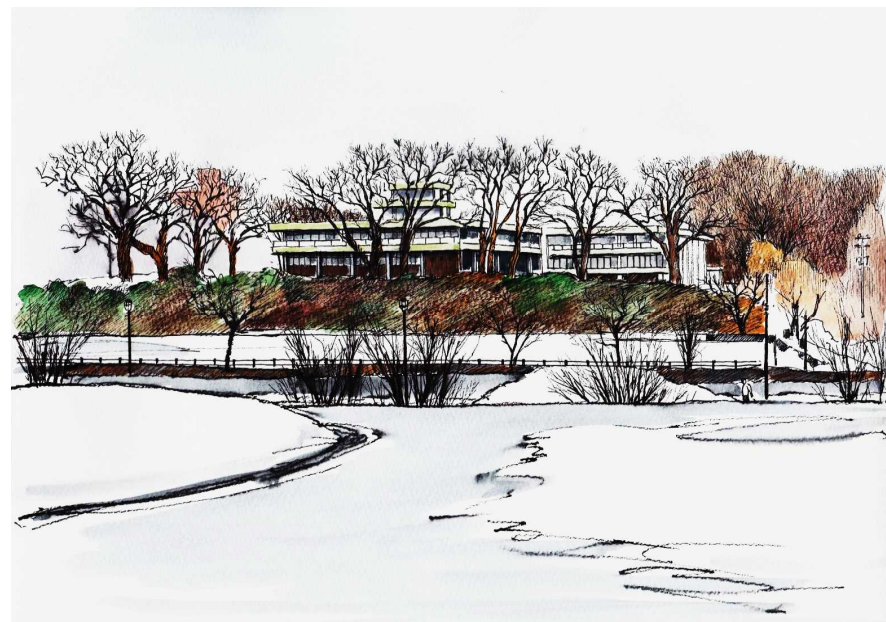


イラスト: Nozaki Fumitaka

## 進取の精神

『秋田県立図書館創立100周年記念誌』を紐解いてみると、それぞれの時代に「進取の精神」が感じとれます。明治32年の開館は全国の県立図書館の草分けでした。なかでも目を引くのは「郷土資料等の収集は新刊と並んで疎かにしてはならない。」として、収集・保存に重きをおいてきたことや明治35年、「巡回文庫」をいち早く取り入れ県民の読書の普及に大きく貢献したことです。大正8年には講堂と展示室を設け、社会教育的機能をもたせるという画期的な発想をしています。大正10年、現在のレファレンス・サービスともいえるべき質疑応答が開始され、これもまた当時全国のさきがけでした。

開館から114年。秋田県立図書館の挑戦は連綿と続いています。昨年10月からの「秋田県デジタルアーカイブ」と「電子書籍」もその一つです。

当館は平成9年度から3年間、文部省から委嘱で「資料電子化」の実証実験を行うなど、先進的な試みをしてきました。東日本大震災では地域の貴重な資料が失われ「資料電子化」の必要性が再認識されました。「秋田県デジタルアーカイブ」では、県内の美術館や博物館等の所蔵資料のデジタル資料を、横断的に検索・閲覧できます。「電子書籍」は全国の県立図書館初として注目されており、来館が困難な高齢者や子育て世代を対象にしたサービスとして充実させていく所存です。

今年は現在地への移転・新築から20年の節目です。「進取の精神」を継承し、これからの新しい時代に対応する図書館をめざして、職員一同力を合わせてまいりますので、これまで以上に皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

秋田県立図書館長 小野 靖子

## 図書館アンケート報告

県立図書館では、図書館サービスの向上に活かすため、利用者の皆様へアンケートによる調査を行いました。その結果についてまとめたものの一部を紹介します。

■実施時期 平成24年12月21日（金）～27日（木）

■実施方法 図書館カウンターでのアンケート用紙配布 ■回答者数 664名

### ■調査項目と回答結果

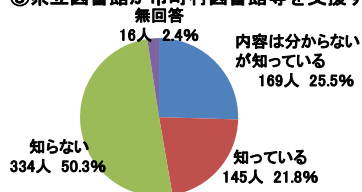
#### ①どのような目的で来館されましたか。

「資料を借りる・返す」が85.8%を占め、その他は「資料を読む（3.6%）」「勉強（3.2%）」「資料の調査（0.8%）」となっていました。

#### ②目的は達成されましたか。

「達成できた（74.4%）」「一部達成できた（23.9%）」を合わせると、98.2%の人が「目的が達成された」と回答しました。

#### ③県立図書館が市町村図書館等を支援する役割があることを知っていますか。

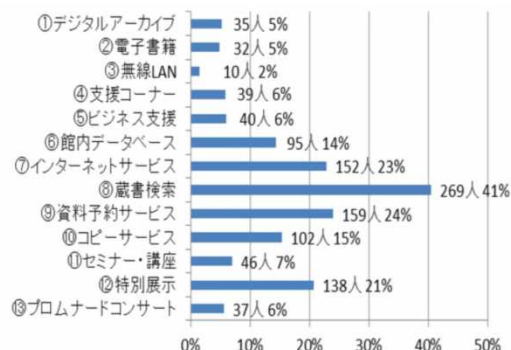


当館では、県内市町村図書館等に対し研修や助言、訪問等を行っています。このことについて「知っている」と「知らない」がそれぞれ半数を占め、県立図書館が市町村図書館等を支援する役割についての認知度は十分ではありません。

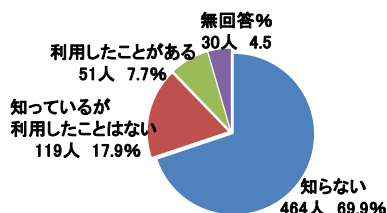
#### ④県立図書館では様々なサービスを行っていますが、それらについて利用されたことがありますか。（複数回答可）

県立図書館で行っている様々なサービスについてどれくらい認知されているのかについての質問項目です。

貸出や資料閲覧以外で一番利用されているのは「蔵書検索」で、続いて「資料予約サービス」「インターネットサービス」となっていました。その一方で「デジタルアーカイブ」「電子書籍」「無線LAN」などの利用も少しずつ進んでいます。



#### ⑤レファレンスサービスを知っていますか



「知らない」と回答した人が約70%を占め「知っているが利用したことはない」「利用したことがある」と回答した人は合わせて約16%にとどまりました。当館では1年に約3万件の質問がありますが、より多くの方々にレファレンスサービスを気軽に利用していただけるよう、取り組みをしていく必要があることが分かりました。

## 加藤正人講演会

年末からの大雪が一段落した2月2日（土）に、秋田市文化会館大会議室において、平成24年度第2回秋田県読書のつどい「能代市出身脚本家 加藤正人講演会」が開催されました。

読書のつどいは、作家などの著名人が、日常の創作活動や自らの体験を通じて、読書の楽しさ、すばらしさ、大切さについて、県民に広く理解していただくため、県の総合政策課が主催し、今回は県立図書館も共催しました。

加藤さんは昭和29（1954）年、能代市の生まれ。早稲田大学に進学し、その後、映画やテレビドラマなど多くの作品の脚本を手がけ、近年では「日本沈没」「クライマーズ・ハイ」「天地明察」など数々のヒット作に携わるなど、日本を代表する脚本家の一人として活躍されています。



「文学から映画の世界」と題された講演では、文学作品がどのようにして脚色され、映画作品となっているのかを、近日公開の「だいじょうぶ3組」や「草原の椅子」の撮影の様子や出演俳優とのやりとりなどを交えながら、普段うかがい知ることのできない興味深いお話を披露されました。

この日は連日の大雪から一転、寒さが緩み解けた雪で足元がぬかるむあいにくの天候でしたが、150名の参加者は、加藤さんの講演に真剣に耳を傾けていました。

## 「雑誌スポンサー制度」とエントランスの「スポンサーコーナー」

県立図書館では今年度から、県内の企業に雑誌を御寄贈していただき、雑誌架にスポンサーの情報を掲示する「雑誌スポンサー制度」を導入しております。現在24社の企業から雑誌をご提供いただいております。

県立図書館は年間約45万人の方に利用いただいております。幅広いジャンルの雑誌を所蔵することから、その分野に関心を持つ多くの来館者の目に触れるため、高い宣伝効果が期待できます。県立図書館への雑誌提供を通して、地域に密着したPR活動と地域貢献を同時に行うことができます。

企業のイメージアップにもつながる「雑誌スポンサー制度」に、ぜひご理解とご協力をお願いいたします。



<雑誌コーナー>



<スポンサーコーナー>